



平和への誓い 長崎被爆者代表が原稿変えて訴え

8月9日、長崎原爆の日の平和祈念式典で被爆者を代表して城臺(じょうだい)美彌子さん(写真)がスピーチ。TVを見た方もいるでしょう。当初原稿にはなかった、「集団的自衛権の行使容認は日本国憲法を踏みにじった暴挙です」とアドリブで想いを述べました。式典に出席していた安倍首相はうろたえ憔悴しきった姿をテレビ中継を通して全国にさらしました。その勇気あるスピーチに全国から拍手が上がっています。一方、首相は記者に、この「誓い」に対し、また福島のことを問われても終始ノーコメント。その挨拶文は、広島も長崎も昨年とほぼ同じ文言。平和を語る空疎な決まり文句には失望の声が聞かれます。



「憲法9条がある」「主権者は私たち!」

～「10回目の小川町戦争展」からの報告～

10回目の小川町戦争展が終わりました。戦後69年、特定秘密保護法の制定や集団的自衛権行使容認の閣議決定、軍事費の膨張などなど、今までと比較にならない危険な状況が目白押しの中で迎えた戦争展でした。静かだった小川の空でも、いつの頃からか、戦争の訓練のための米軍機が毎日我が物顔に爆音を響かせています。今後はオスプレイの恐怖にもさらされる恐れが出てきました。「憲法9条がある」「主権者は私たち」なんて言って安心してられない時代になってしまいました。私たちの「不断の努力」が今ほど求められているときはなかったでしょう。歴史に学び、過ちを繰り返さない道を選ぶ、それが私たちの責任であり、それを再確認するのが、この小川町戦争展なのです。



小さな町の創造的な手作り戦争展

戦争する国への足音が響いてくると、他民族蔑視・愛国心礼賛・日本の安全に対する脅威論がふりまかれ、過去の歴史の歪曲と共に、国民は真実を知り表現する自由を奪われ、やがては命までも・・・となります。それは、21世紀の今も昔も変わりません。そんな危機感もあってか、



今年は、あちこちで戦争展を実施している方たちも、小さな町の創造的な手作り戦争展を見ようと思ってきてくださいました。そして「えっ、毎年展示するものがちがうんですか」とびっくりしていました。「1月から取り組みを開始し、5月まではその年の課題の学習をしたうえで、この展示物を作成するのが小川町戦争展なのです。」と、ちょっと自慢してしまいました。

イベントも大盛況でした。「標的の村」、沖縄の人たちの不屈の闘い。理不尽の極みを尽くす政府。今の日本の縮図です。ぜひ、各地で上映してほしいものです。恒例の「朗読と歌のつどい」は悪天候でしたが、タイムリーな内容に挑戦した熱意が会場を包みました。小川町戦争展には欠かせないものです。

「先輩からの伝言」(戦争の体験談)も第3集まで発行

この町ならではのものとしては、9日間というロングラン開催です。その間の参観者は、展示に(記帳、カウントした方だけで)665人、イベントに330人でした。今年初めて知ったという方もかなりいました。また、「先輩からの伝言」(戦争の体験談)も第3集まで発行することができました(現在400円で頒布しています)。

この戦争展を支えてくださっている小川町のたくさんの商店各社、協力してくださっている多くの方たち、後援の小川町と町教育委員会に深く感謝いたします。ご批判等ございましたら、実行委員会までお寄せください。また、来年もお出かけください。(実行委員会事務局長 笠原恵子)

もよおしもの

ご案内

◆おがわ町九条の会総会

日時:9/28(日) 午後3時30分～

会場:小川町図書館視聴覚ホール



◆金子勝講演会

「日本国憲法と集団的自衛権」

～「戦争する日本」を阻止するための私たちの課題～

～憲法の語り部になろう～

日時:9/28(日) 午後1時30分～

会場:小川町図書館視聴覚ホール 入場無料

◆さっちゃんのりちゃんコンサート

～チェロとピアノの演奏会～

日時:9/20(土) 午後1:30～

会場:日本刊入教団小川教会 チケット¥1,000

(以上3つについてはおがわ町九条の会に問合せください)

◇第4回平和コンサートin東松山

～梅原司平 望郷・愛・平和をうたう～

日時:9/21(日) 午後2:00～

会場:東松山市民活動センター チケット¥900

(問合せ:東松山九条の会 ☎ 23-9287 馬橋)



リレーメッセージ



「聞いて!聞いて!私の声」・・・「おがわ町九条の会」では町のみなさんのいろいろな声を特集してゆきます。「九条へのおもい」「平和への願い」「現状への不平・不満」などなど、みんなに聞いてもらいたいことを、どうか事務局までお届けください(匿名でも結構です)。今回、3人の方々のご協力をいただきました。(東京に転居された長尾愛子さんから投稿いただきました)ありがとうございます。

まだ見ぬ「孫」のためにも

高谷 井川洋子

「徴兵制などあり得ません」と安倍首相が国会で答弁した。信じられない。「福島原発事故の影響は完全にブロックされている」と世界各国の衆目の中で平然と言ったのけた人の言葉だ。信じられないわけがない。「外国のために自衛隊が武力行使をすることはない」と言ったその同じ口で、「任務を遂行するために武器の使用はあり得る」と答える。全く矛盾していることをぬけぬけと言える、その精神構造はどうなっているのだろう。凡人の私には理解できない。安倍首相が「少子化対策」を口にする、うすら寒い感じがする。戦前の「生めよ、殖やせよ」という政策が重なってしまうからだ。特定秘密保護法、教育委員会制度改悪等々と、次から次へと悪法を成立させ“いつか来た道”へとひた走る安倍政権。つい悲観的になってしまうが、国民の声は大きくなってきているし、若者たちも声を上げ始めている。ここは踏ん張らねば。まだ見ぬ「孫」のためにも。

どう考えても他人のケンカと恨みを買いに行く話

小川町外 匿名希望

「集団的自衛権に反対」と言うとき安倍政権の支持者からは「中国や北朝鮮に攻められたらどうするんだ?」という反論が判で押したように返って来ますが、果たして集団的自衛権はこれらの国の脅威に有効なのでしょうか?

たとえば北朝鮮と戦争になった場合、アメリカと北朝鮮では国交がありませんから邦人の救出は日本の勝利が確定して武装解除させた状態以外あり得ません。アメリカが出てくる意味なんてありません。では、日本と中国が戦争状態になった場合はどうか?

自衛艦がアメリカの船を守るために中国の領海内に侵入したら、相手はどう考え行動するか?

逆の立場になって考えてみれば中国政府がどう考えるかわかります。

在日中国人を中国に送り届けるために出向したアメリカ船を「在日中国人の保護」を名目に中国海軍の艦隊が無断で日本の領海内に入って来るのです。

無事に済むとは思えません。戦闘の巻き添えでアメリカ船が沈むことにでもなればアメリカ国民の恨みも買うことになります。

以上のことから集団的自衛権が安倍政権支持者の言う「中国・北朝鮮との有事に備えたもの」という考えは破綻しています。

彼らは安倍政権が改憲しようとしている現行の日本国憲法について「先制攻撃のできない憲法なんて情けない」と仰いますが、私はこれほどアグレッシブな防衛術は無いと思います。

どんなケンカであれ、先に手を出した方が悪と見られるのは世の常です。

専守防衛というのは「私からは決して手を出しません。それでもあなたが私を攻撃するというのであれば、それは全世界を敵に回すことになります。あなたにはその覚悟があるのですか?」と相手国に向けて突きつけたまさに抑止力です。

この抑止力が働いていたからこそ戦後日本は平和だったのであり、この憲法9条の効果はこれからの時代にも十分に通用するものだと思います。

南越谷スタンディングに参加

東京 長尾愛子さん

6月の中旬のある日、フェイスブック上で友人Mさんが新しい活動をやってみようということを発表しました。越谷在住の彼女は「集団的自衛権の行使容認反対」というプラカードを持って、最寄りの駅のコンコースで黙って立つ、という行動をしてみるというのです。そのようなことを新宿駅でやっている人がいるので、「自分もそれならできそう、仲間を募る」と書いていました。「今度の水曜なら私も行けるよ」とコメントを返すと、「じゃあ、その日が記念すべき第一回ね」と話は軽く決まりました。

16日当日、私も自作の「平和への努力と戦争への努力、どちらが大事?」と書いたプラカードを持って南越谷に向かいました。Mさんの知り合いが4、5人集まっていた。チラシを配るでもなく、署名や募金を呼びかけるのでもないのです。それでも乗換駅なので沢山の人が私たちのプラカードをチラチラ、ジロジロ見ながら通って行きました。「がんばって!」という人、にっこりしたり、うなずきながら通過する人もいます。終わる頃には「ぼくもこういうことが必要だと思っていたのです」と若い男性が話しかけてきました。無論、無視する人が大多数ですが。

歌好きなMさんと私は知っている平和の歌を大声で歌いながら、立っていました。

次の週も水曜日に行ってみました。「この場所で、販売や音楽活動をしなくてください」という真新しい立派な黄色い看板が何枚も設置されていました。「あ〜、随分意識してもらえたんだね」と前向きに受け止め、とりあえず歌はやめました。その後私は仕事の都合で行けなくなっていますが、この「スタンディング行動」は続いています。仲間は増え続け、毎回10人以上の人が参加しているようです。

平和憲法を骨抜きにするような内容を閣議決定で決めていいはずはなく、色々な人があきらめずに行動しています。黙っていると認めたとことになってしまいますから、あらゆる方法で声を上げていきたいもの、と思っています。

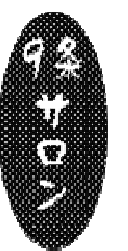
長尾愛子さんは、昨年まで「おがわ町町民コンサート」や、「さようなら原発小川町のつどい」で中心的な役割を担ってこられた、元小川教会のオルガニストです。夫・牧師の邦弘さんの転勤に伴い小川町を去りましたが、今回呼びかけに応じて、お便りをお寄せ頂きました。

山田洋次監督作品 小さいうち



朝ドラでおなじみの黒木華さんがベルリン映画祭で最優秀女優賞を受賞したこの映画。9/27(土)小川町パトリア小川で上映予定(シネサークルおがわ主催)です。

えている。朝日新聞8月8日の記事から) 平和な日常は必ずしも戦争の非日常性と相反するものではなく、気味悪くも同居してしまえるのだと、歴史は教える。 ばん心配なのは、現実の日本の人々を支配する無関心だ。 大変な数の主権者が、投票に行かず、選挙権を放棄している。そのことよって、あきらかに自分自身を苦しめることになる政策や法律が国会を通ってしまった。結果的にそれを支持したことになると(気づいていない)。だんだんと日常に入り込んでくる非日常を、毒に身体を慣らすように受け入れてしまつかと思つてほんとうに怖い。



身体が毒に慣れていく怖さ
小さいうち」の原作者
・中島京子さんのことば
「戦前」という時代」より)

昨年あたりから、私はいろいろな人に、「小さいうち」の時代と今の空気が似てきましたね」と言われるようになった。いち